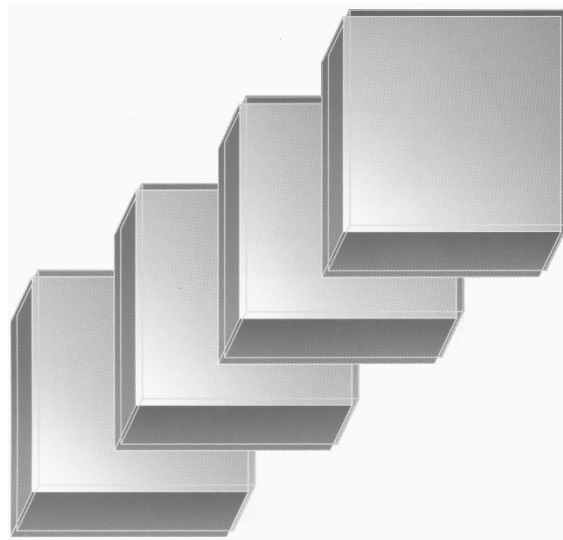


日本地域看護学会 第18回学術集会 プログラム

メインテーマ

健康長寿社会に向けた
地域看護学のグランドチャレンジ



会 期 平成27年8月1日（土）～2日（日）

会 場 パシフィコ横浜

学術集会長 田高 悦子（横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野教授）

日本地域看護学会 第 18 回学術集会ご案内

1. 会 期 2015年8月1日(土)～2(日)
2. 会 場 パシフィコ横浜会議センター(横浜市西区みなとみらい1-1-1)
3. 申 込

1) 事前申込

学術集会 HP (<http://jachn.umin.jp/meeting/m18/index.htm>) より申込のうえ、**6月30日(火)**までに事前参加費をお払込ください。

2) 当日申込

学術集會会場内の受付にて、申込のうえ、当日参加費をお支払ください。当日申込は混雑が予想されますのでできるだけ事前申込をしてください。

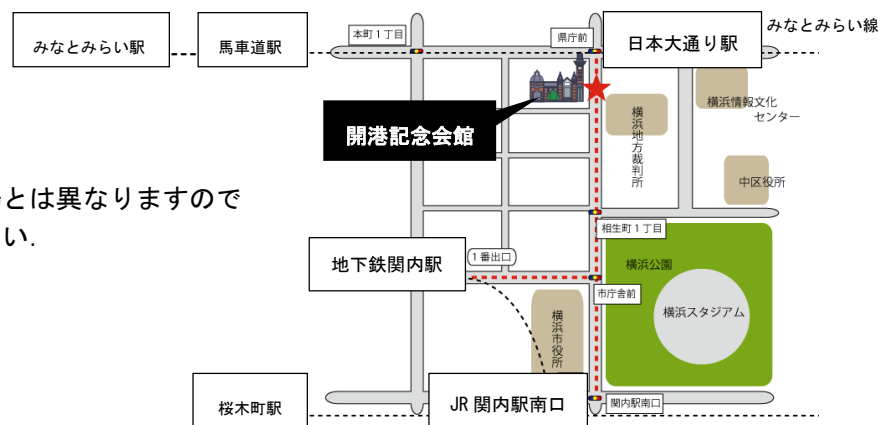
種別		学術集会	懇親会
会員	事前申込	9,500 円	7,500 円
	当日申込	11,000 円	8,000 円
非会員	事前申込	10,000 円	7,500 円
	当日申込	12,000 円	8,000 円
学生(大学院生を除く)	事前申込	2,000 円	7,500 円
	当日申込	3,000 円	8,000 円

- ・すべての参加費に講演集代が含まれます。講演集は、事前申込の方には事前に送付します。当日申込の方には当日お渡しします。
- ・講演集(1部2,000円)は当日、会場においても販売します。一度払い込まれた参加費等の返金には応じられませんのでご了承ください。
- ・ランチョンセミナー、アフタヌーンティーセミナー(p.7,9)は、先着順定員制で事前申込優先とさせていただきます。事前に定員に満たなかった場合のみ、当日、申込を受付けます。

第 18 回学術集会プレセミナーご案内

1. 日 時 2015年7月31日(金) 18:30～20:30
2. 会 場 横浜市開港記念会館(横浜市中区本町1-6)
3. テーマ 始めよう!強みを見い出す地域診断
4. 講 師 首都大学東京健康福祉学部 齊藤 恵美子 教授
5. 司 会 共立女子大学看護学部 田口(袴田) 理恵 教授
6. 申 込 学術集会 HP より事前申込後、講演集を持参のうえ会場にお越しください。
申込は定員になり次第締め切ります。参加費は学会参加費に含みます。

※学術集會会場とは異なりますので
ご注意ください。



ご挨拶

Welcome to YOKOHAMA 2015

日本地域看護学会第 18 回学術集会を来る 2015 (平成 27) 年 8 月 1 日 (土) ~2 日 (日) に横浜にて開催させていただくにあたりご挨拶を申し上げます。

本学会は、1997 年、地域看護学の学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的に金川克子初代理事長 (当時東京大学教授) のもとに創立以来歴史を重ね、2014 年、一般社団法人となりました。第 18 回学術集会は、法人格を有する学会として新たな一歩を踏み出す記念すべき大会となります。

メインテーマは、「健康長寿社会に向けた地域看護学のグランドチャレンジ」といたしました。「健康長寿社会」とは、一人ひとりの地域住民が生涯にわたって健やかで心豊かに生活し、老いることの出来る地域社会を指しています。また「グランドチャレンジ」とは、取り組むべき「挑戦課題」の意で用いています。

わが国の超高齢社会は世界の耳目を集めるところですが、この社会が健康長寿に向けて進むためにはさまざまな課題があると考えられます。すなわち、本学会では、健康長寿社会の実現にむけた意義ある挑戦課題とその展望を見出すことができるよう、さまざまな領域とも連携し、活発な討議や交流のうえ、英知を結集してまいりたいと存じます。

具体的には、一般演題を基盤にしつつ、健康長寿社会にかかわる多様で豊かな視座に基づく特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、セミナー、指定集会等を企画いたしました。また本学会としては初めての試みですが、現任教育の一環として学会前夜のプレセミナーや次世代育成の一環としてスチューデントカフェ等も企画いたしました。

会場のパシフィコ横浜は、開国の歴史と国際性にあふれ、多彩な名所旧跡を有する横浜の中心地「みなとみらい」に位置しており、アフターコンベンションもまたその趣を十分にご堪能いただけることと存じます。2015 (平成 27) 年 8 月、多くの皆様に横浜でお目にかかれまことを事務局一同、心よりお待ち申し上げます。

日本地域看護学会第 18 回学術集会

学術集会長 田高悦子
(横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野 教授)

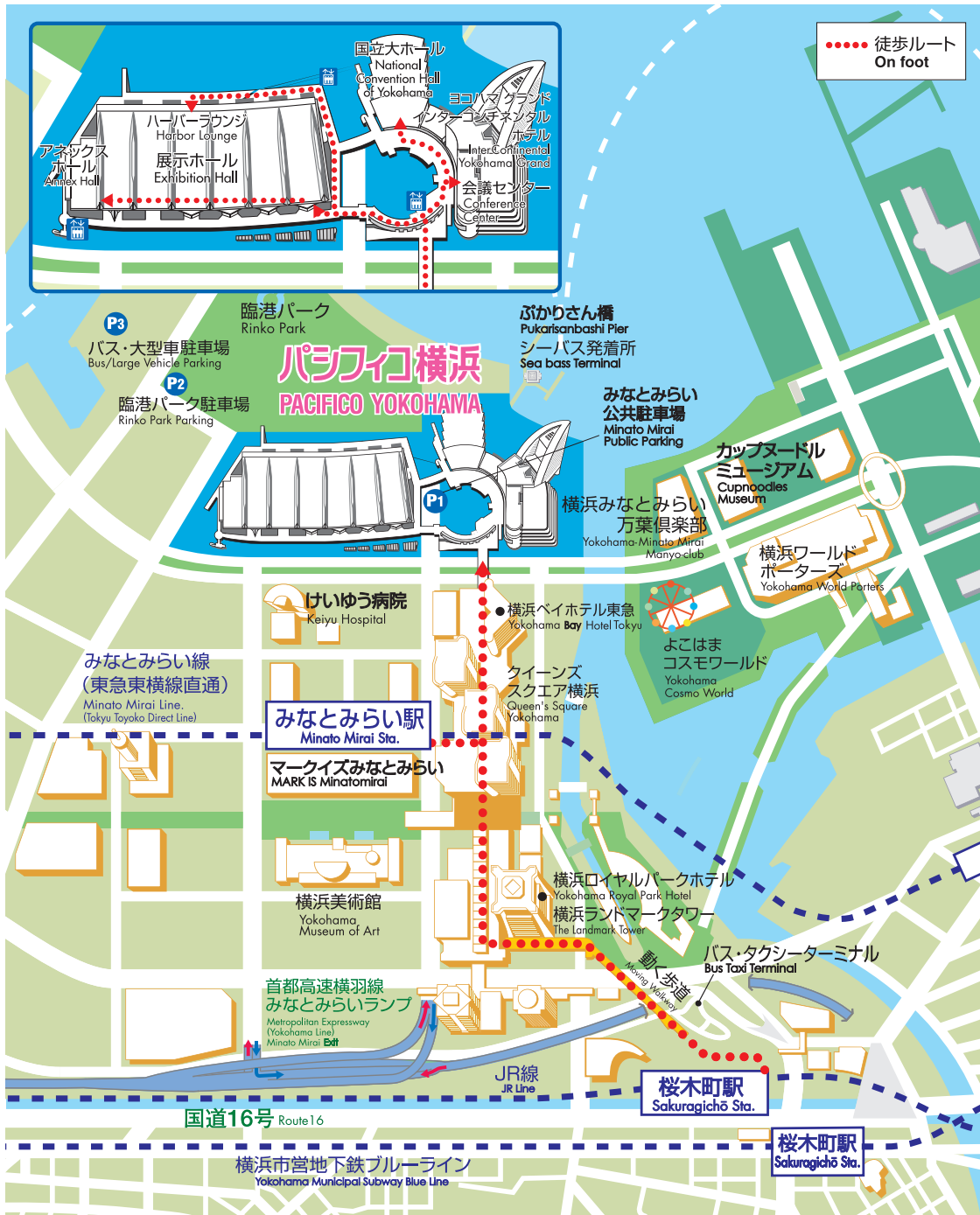
会場へのアクセス

●交通のご案内

飛行機で	羽田空港	パシフィコ横浜直通リムジンバス		35分	パシフィコ横浜		
		リムジンバス	30分	横浜駅		タクシー	7分
		京浜急行	24分				
	成田空港	リムジンバス <small>(パシフィコ横浜行きは120分)</small>	90分	みなとみらい線		3分	
		JR成田エクスプレス	90分				
電車・新幹線で	渋谷駅	東急東横線:特急→みなとみらい線 <small>(東急東横線・みなとみらい線 直通運転)</small>		30分	みなとみらい駅	徒歩 3分	
	東京駅	JR東海道線		25分	みなとみらい線	3分	
		JR横浜線	菊名駅	東急東横線			10分
	新横浜駅	JR横浜線		3分	桜木町駅	徒歩 12分	
		JR横浜線		13分		バス 7分	
		横浜市営地下鉄ブルーライン		15分		タクシー 5分	
	お車で	【東京方面より】		横羽線 みなとみらい ランプ	3分		
		首都高速	横羽線 横浜公園方面 湾岸線 (ベイブリッジ経由) 横浜方面				
	【関西・中部方面より】						
	東名高速 横浜町田IC	保土ヶ谷バイパス 約15分 ▶ 狩場IC ▶ 高速神奈川3号 狩場線横浜方面 約10分					

パシフィコ横浜会議センター

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1
 総合案内 TEL:045-221-2155 交通案内 TEL: 045-221-2166
<http://www.pacifico.co.jp/index.html>



※駐車場情報: みなとみらい公共駐車場, 臨港パーク駐車場が併設されておりますが, 混雑が予想されますので, できるだけ公共交通機関を利用してお越しいだき。

懇親会

日時：8月1日（土）18:00～19:30（17:30～入場）

会場：パシフィコ横浜展示ホール2階「DANZERO（ダンゼロ）」



1. 事前申込

学術集会 HP より申込のうえ、6月30日（火）までに事前参加費をお払ください。申込は定員になり次第、締め切らせていただきます。

2. 当日申込

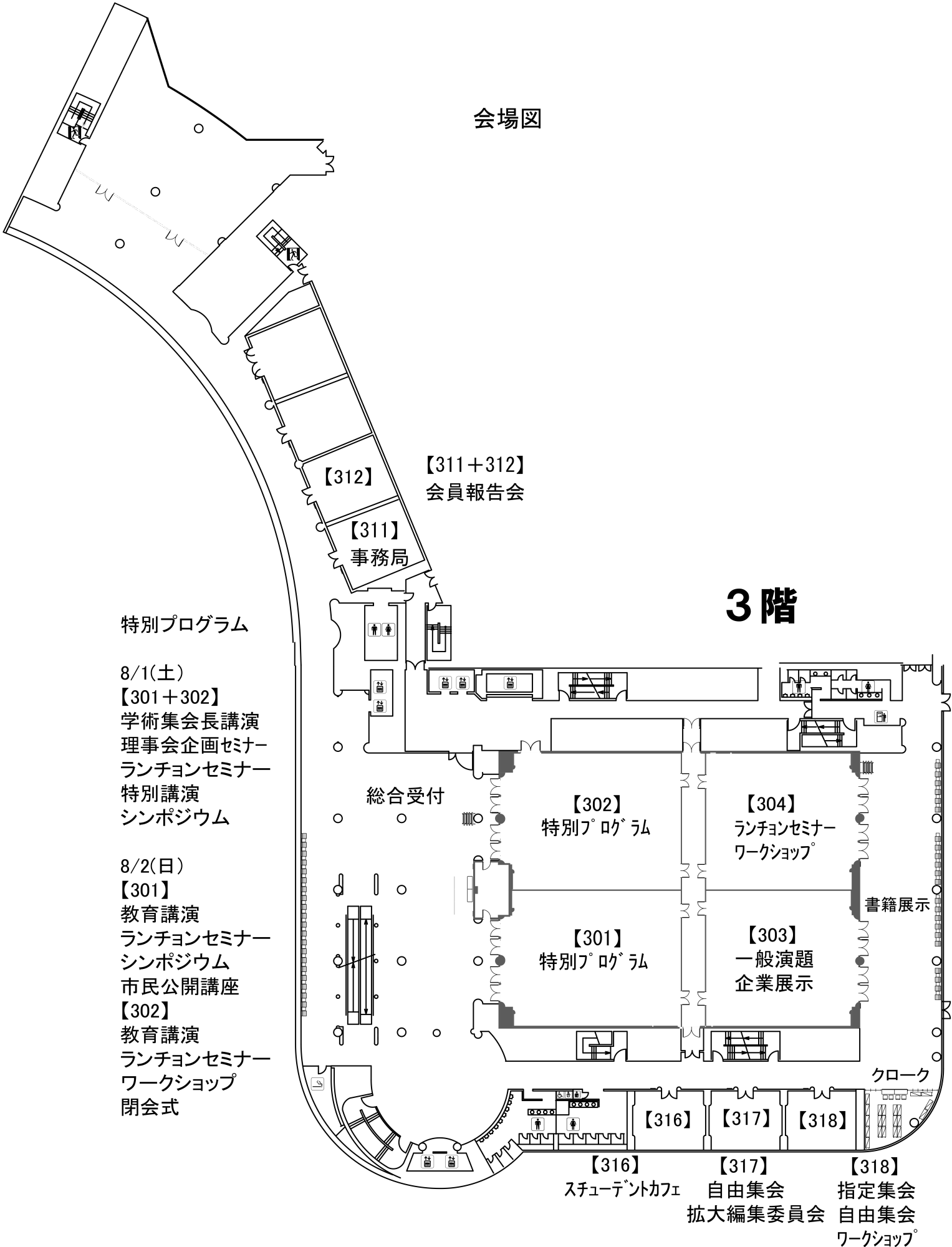
事前に定員に満たなかった場合のみ受付けます。学会当日、会場内の受付にて申込のうえ、当日参加費をお支払ください。

宿泊案内

ご宿泊は、学術集会 HP「宿泊案内（日本旅行）」より、ご予約いただけます。お申込・お支払締切日は、2015年7月10日（金）です（HP画面上で、お支払いが可能です）。なお、宿泊施設・客室数には限りがありますので、お早目にお申込ください。

学術集会 HP <http://jachn.umin.jp/meeting/m18/index.htm>

会場図



特別プログラム

8月1日(土)

学術集会長講演 9:40~10:20 301・302

健康長寿社会に向けた地域看護学のグランドチャレンジ

演者 田高 悦子 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野教授
座長 金川 克子 NPO 法人いしかわ在宅支援ねっと理事長, 名誉会員

理事会企画セミナー 10:30~11:30 301・302

医療介護総合確保推進法後の保健医療福祉：地域看護領域へのインパクト

演者 迫井 正深 厚生労働省老人保健局老人保健課長
座長 佐伯 和子 北海道大学大学院保健科学研究院創成看護学分野教授

わが国における保健医療福祉提供体制の改革の背景と医療介護総合確保推進法の趣旨を踏まえ、今後の地域包括ケアシステムのあり方等について課題と展望を考える。

特別講演 13:00~14:00 301・302

健康長寿社会に向けた地域ケア政策と人材育成における展望と課題

演者 大森 彌 東京大学名誉教授, NPO 法人地域ケア政策ネットワーク代表理事
座長 田高 悦子 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野教授

人口減少と少子・高齢化における持続可能な地域社会の構築と人材育成の課題を踏まえるとともに、地域における自助・互助・共助・公助の最適システム化について考える。

シンポジウム I 14:10~15:40 301・302

人口減少社会における新しい地域づくり ～新しい公共の創出と協働～

演者 秋山 正子 株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション統括所長・暮らしの保健室室長
杉山 昇 NPO 法人都市住宅とまちづくり研究会理事長
岸 恵美子 東邦大学看護学部地域看護学研究室教授

座長 河野 あゆみ 大阪市立大学大学院看護学研究科在宅看護学教授
田口(袴田)理恵 共立女子大学看護学部地域・在宅看護学教授

多様な主体が共助の精神で公共的な財・サービスを提供する「新しい公共」による地域づくりの活動実践から、地域看護の新たな可能性を考える。

ワークショップ I 15:10~16:40 304

科学としての地域看護学 ～質的研究について考える～

演者 高木 廣文 東邦大学看護学部国際保健看護学研究室教授
座長 尾崎 章子 東北大学大学院医学研究科老年・在宅看護学分野教授

質的研究の科学性という、よく提起される疑問について、構造主義科学論の立場から、量的か質的かを問わず科学的な研究が成立するための哲学的基盤について考える。

共催ランチョンセミナー（先着順定員制で事前申込優先とさせていただきます。）

ランチョンセミナー1 11:45～12:45 301・302

（ソフトバンク株式会社・株式会社日本エンブレース 共催）

つながろう！完全非公開型 多職種連携 SNS

～実践型ワークショップで、明日から地域包括ケアに即活用～

講師 伊東 学 株式会社日本エンブレース代表取締役

司会 荻葉 敦史 ソフトバンク株式会社ヘルスケアプロジェクト推進室マネージャー

多職種連携SNS「メディカルケアステーション(MCS)」について、サービス・事例紹介、ハンズオン体験を通じて、地域包括ケアにおける多職種連携に向けて身近な活用方法を考える。

ランチョンセミナー2 11:45～12:45 304

（東洋羽毛工業株式会社 共催）

健康長寿と睡眠 ～より健康に、生き生きと毎日を過ごすための睡眠6箇条～

講師 金子 勝明 一般社団法人日本睡眠教育機構認定睡眠健康指導士

良質な睡眠がとりにくい現代。より健康に、より生き生きと毎日を過ごすために、健康長寿の視点から良質な睡眠確保のための方策を考える。

共催アフタヌーンティーセミナー 14:00～15:00 304

（株式会社ナガセ東進ハイスクール 共催）

次代を担う専門職人材育成 ～産学連携における入学前教育へのチャレンジ～

講師 麻柄 真治 株式会社ナガセビジネススクール本部東進ハイスクール大学事業部本部長

座長 北山 三津子 岐阜県立看護大学看護学部地域基礎看護学領域教授

産学連携に繋がる入学前教育の取り組みの紹介を通じて、次代を担う専門職人材育成のあり方と今後の課題を考える。

指定集会1 14:00～15:20 318

（公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 助成）

地域包括ケアシステムにおいて保健師が果たす役割を考える集会

～保健師がみる・つなぐ・動かす地域包括ケアシステムとは～

ファシリテーター 工藤 禎子 北海道医療大学看護福祉学部地域保健看護学講座准教授

「医療介護総合確保推進法」、平成25年保健師活動指針による、地域包括ケアシステムの推進に向けて、保健師全体に共通する役割と様々な場の特性に応じた役割をともに考える。

指定集会2 15:30～16:50 318

（公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 助成）

孤独死ではない在宅ひとり死を考える集会

～どのような体制や仕組みがあれば在宅ひとり死は可能になるのか～

ファシリテーター 柄澤 邦江 長野県看護大学看護学部広域看護学講座講師

在宅ひとり死の現状や長野県南信地区の事例紹介を通して、地域における看護職の役割や支援について言語化し、地域に密着した保健・医療・介護・福祉のあり方について討議する。

8月2日(日)

教育講演Ⅰ 10:00～11:30 301

地域を基盤にした生涯にわたる健康づくりとソーシャルキャピタル

演者 山縣 然太朗 山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座教授

座長 荒木田 美香子 国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科教授

なぜ、いま、ライフコース・ヘルスケアなのか。その視点から求められる地域保健活動を探るとともに、ソーシャル・キャピタル醸成を通じた「健康づくりはまちづくり」の概念を概説する。

教育講演Ⅱ 10:00～11:30 302

高齢者の健康と社会的ネットワークの形成に関する地域介入

演者 芳賀 博 桜美林大学大学院老年学研究科教授

座長 小西 かおる 大阪大学大学院医学研究科地域ヘルスケアシステム科学研究室教授

住民主体で生活者の視点に立脚したアクションリサーチについてそのポイントを概説するとともに、高齢者の社会的ネットワーク形成に向けた介入プログラムの開発及び効果評価について論ずる。

ワークショップⅡ 10:25～11:40 318

災害に対する地域保健活動と学会の役割 ～原子力災害被災地域への発災後3年8か月時の訪問を通して捉えた地域保健活動の現状と課題の実際を踏まえて～

企画 平成24-26年度日本地域看護学会災害支援のあり方検討プロジェクト

委員長 宮崎 美砂子 千葉大学大学院看護学研究科地域創成看護学分野教授

被災現地への訪問を通して捉えた現状及び考察を基に、災害支援に対する地域看護学会としての役割について参加者と共に意見交換を行う。

会員報告会(表彰式) 12:00～12:50 311・312

ワークショップⅢ 13:00～14:30 302

地域の見える化と統計解析 ～地域看護学へのGISの応用～

演者 宮澤 仁 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授

座長 永田 智子 東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野准教授

地理情報システム(GIS)を用いた地域の健康課題の抽出と、それによる地域看護学への応用について、実例に基づいて参加者と共に展望する。

ワークショップⅣ 13:00～14:15 318

保健師の現任教育のあり方

～現任教育において修士課程修了生である保健師が果たす役割と大学院教育～

企画 平成24-26年度日本地域看護学会教育委員会

委員長 春山 早苗 自治医科大学看護学部地域看護学教授

修士号を有する保健師の役割と大学院教育のあり方について、地域の第一線の実践現場で働く修士号を有する保健師と管理職の報告に基づき展望する。

シンポジウムⅡ**13:00～14:30****301**

すべての子どもが健やかに育つために ～生涯に通じる子どものセルフケア能力の育成～

演者 朝倉 隆司 東京学芸大学芸術・スポーツ科学系養護教育講座教授
高橋 ゆきえ 前 横須賀市児童相談所所長
横山 美江 大阪市立大学大学院看護学研究科地域看護学教授
座長 大場 エミ 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育推進部長，総合母子保健センター研修部長
北岡 英子 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科教授

「健やか親子 21」に掲げられた母子の健康格差是正に向けて，多様化・複雑化する現代における子どもの健やかな育ちを保障するための地域保健施策を考える。

共催ランチョンセミナー（先着順定員制で事前申込優先とさせていただきます。）**ランチョンセミナー3****11:45～12:45****301**

（ESRI ジャパン株式会社 共催）

地域看護における地理情報システム（GIS）活用のススメ
～自治体，教育機関，訪問看護ステーションのそれぞれの観点から～

講師 矢口 浩平 ESRI ジャパン株式会社ソリューション営業グループ
座長 岡本 玲子 岡山大学大学院保健学研究科看護学分野教授

地理情報システム（GIS）と事例の紹介を通じて，自治体，教育機関，訪問看護ステーションのそれぞれの観点から，地域看護における GIS の活用策を考える。

ランチョンセミナー4**11:45～12:45****302**

（一般財団法人電気安全環境研究所 共催）

高周波電磁界の健康リスク評価 ～WHOの国際電磁界プロジェクトを中心にして～

講師 大久保 千代次 一般財団法人電気安全環境研究所所長
座長 鳩野 洋子 九州大学大学院医学系学府広域生涯看護学講座教授

WHO 国際電磁界プロジェクトでの取り組みを通じて，携帯電話などの高周波電磁界の健康リスクについて考える。

スチューデントカフェ**14:30～15:30****316**

（日本看護系学会協議会 Nursing Science Café 事業 後援）

地域看護への招待 ～保健師・看護師・研究者が語る地域看護の実践とサイエンス～

司会 伊藤 絵梨子 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野助教

次世代の看護を担う学生を対象に，保健師・訪問看護師・看護学研究者による語りから，地域看護の実践とサイエンスの連動性およびその魅力を伝える。

市民公開講座**15:00～16:00****301**

（公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団助成，横浜市立大学エクステンション講座共催）

遺品整理の最前線 ～命綱としての地域コミュニティ～

講師 小根 英人 一般社団法人遺品整理士認定協会副理事長

座長 有本 梓 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野准教授

高齢化の急速な進展と核家族化に伴い，需要の高まる「遺品整理」の最前線を紹介し，孤立死問題の命綱としての地域コミュニティについて市民とともに考える。

日本地域看護学会第18回学術集会 タイムテーブル

第1日目：8月1日(土曜日)

場所	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17
受付 総合案内	8:30									
クローク										
書籍販売										
特別プログラム ランチョンセミナー										
301 +302										
303										
304										
317										
318										

時間	内容
8:45-17:00	受付
8:45-17:00	クローク
12:00-17:00	書籍販売
11:45-12:45	ランチョンセミナー1 (ソフトバンク)
10:30-11:30	理事会企画セミナー
9:40-10:20	開会式 学術集会会長講演
14:10-15:40	シンポジウムI (人口減少社会)
13:00-14:00	特別講演
12:00-14:10	ポスター貼付
12:00-17:00	企業展示
16:40-17:00	ポスター撤去
17:00-17:30	ポスター貼付
14:00-15:00	アブストラクティゼーション (ナガセ)
15:10-16:40	ワークショップI (質的研究)
11:45-12:45	ランチョンセミナー2 (東洋羽毛)
14:00-15:15	自由集会1 (ArcGIS)
15:25-16:40	自由集会2 (修士課程保健師教育)
12:00-12:50	拡大編集委員会
14:00-15:20	指定集会1 (地域包括ケア)
15:30-16:50	指定集会2 (在宅ひとり死)

懇親会 場所：ダンゼロ 時間：18:00-19:30

第2日目：8月2日(日曜日)

場所	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	
受付 総合案内	8:30-15:30 受付									
クローク	8:30-16:00 クローク									
書籍販売	9:00-15:00 書籍販売									
特別プログラム ランチョンセミナー 市民公開講座	301	10:00-11:30 教育講演 I (生涯にわたる健康づくり)	11:45-12:45 ランチョンセミナー3 (ESRシヤパン)	13:00-14:30 シンポジウム II (子どもの健康)	15:00-16:00 市民公開講座					
特別プログラム ランチョンセミナー	302	10:00-11:30 教育講演 II (高齢者の健康)	11:45-12:45 ランチョンセミナー4 (電磁界センター)	13:00-14:30 ワークショップ III (GIS)					閉 会 式	
企業展示 一般演題	303	9:00-15:00 企業展示								
		8:30-9:00 ポスター 貼付	9:00-11:30 一般演題 ポスターセッション 12~22	11:30-12:00 ポスター 撤去	12:20-13:00 ポスター 貼付	13:00-15:00 一般演題 ポスターセッション 23~32	15:00-15:30 ポスター 撤去			
スチューデントカフェ	316	14:30-15:30 スチューデント カフェ								
自由集會	317	9:00-10:15 自由集會3 (退院支援教育)	10:25-11:40 自由集會5 (青葉保健師)	13:00-14:15 自由集會6 (フォトボイス)	14:25-15:40 自由集會7 (オープンGIS)					
ワークショップ 自由集會	318	9:00-10:15 自由集會4 (住民参加型地域アセスメント)	10:25-11:40 ワークショップ II (災害支援)	13:00-14:15 ワークショップ IV (保健師現任教育)	14:25-15:40 自由集會8 (公衆衛生看護教材)					

会員報告会 場所:311・312 時間:12:00-12:50

学術集会に参加される方へ

【受付】

1. 受付開始時間
8月1日(土) 8:45, 2日(日) 8:30より, 3階フォワイエにて受付を開始します。
2. 事前申込をされた方へ
 - 1) 受付不要です。講演集とネームカードを事前に送付しますのでお持ちのうえ, 直接会場へご入場ください。
 - 2) ネームカードに必要事項を記入し, 会場内では必ずネームカードをつけてください。
3. 当日申込をされる方へ
 - 1) 受付で当日参加費(会員・非会員別)をお支払いください。講演集とネームカードをお渡しします。
 - 2) ネームカードに必要事項を記入し, 会場内では必ずネームカードをつけてください。

【会場】

1. 3階フォワイエに下記の時間帯に学会専用クロークを設置いたします。なお, 貴重品はお預かりできませんので, ご了承ください。
時間: 8月1日(土) 8:45~17:00
8月2日(日) 8:30~16:00
2. 会場内での呼び出しは行いません。受付付近に連絡ボードを設置いたしますので, ご自由にご活用ください。
3. インターネットサービスは, 会議センター1階のビジネスセンターで利用可能(有料)です。なお, フォワイエは, 無線LANアクセスポイントとなっております。
4. 会議センター2階エントランスにパシフィコ横浜の総合案内がございます。館内及び周辺施設や観光情報等のご案内が可能です。
5. ご気分が悪くなった場合, 会議センター1階の救護室で休んでいただくことが可能です。また隣接のインターコンチネンタルホテル2階にドラッグストアがあります。
6. 宅配便は, 会議センター1階のヤマト運輸臨時カウンターで申込が可能です。
7. 会議センター1階にセルフコピーコーナー(有料)があります。
8. 会場内は, 全館禁煙(分煙)になっておりますので, ご了承ください。
9. 会場内では, 携帯電話の電源を切るか, マナーモードにしてください。

【注意事項】

1. 講演・発表者の承諾を得ずに, 撮影・録音を行うことは禁止いたします。
2. 報道関係者(プレス用の腕章着用者)に限り, 写真撮影・録画・録音を許可します。

【開催中止】

1. 感染症の流行や災害等により, 学術集会の自粛が必要な場合, 速やかに学術集会の中止を決定し, 講演集による誌上発表に切り替えます。
2. 学術集会の中止が決定された場合, 学会ホームページに緊急掲示するとともに, 会場の入口等に掲示します。

一般演題座長の方へ

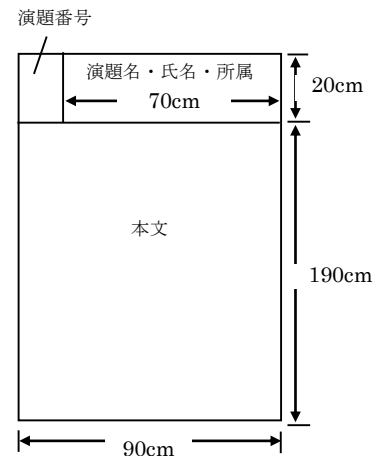
1. セッションの開始 30 分前までに 303 室前の「座長受付」へお越しください。
2. セッションの開始 10 分前までに担当するポスターの掲示場所にお越しください。
3. 座長リボンを付けて、定刻になりましたらセッションを開始し、終了してください。
4. セッションの進行は座長の方に一任しますが、1 演題 6 分（発表 4 分・質疑応答 2 分）を厳守のうえ進行してください。

一般演題発表者の方へ

1. 一般演題発表の受付はございません。セッションの開始 10 分前までに、ご自分のポスターパネルの前で、発表者リボンを付けて待機してください。
2. ポスターは、各演題番号のパネルに、下記の時間帯に貼付・掲示・撤去してください。なお、撤去時間を過ぎたものは事務局で処分いたしますのでご了承ください。

セッション	貼付	掲示(発表時間含む)	撤去
8月1日(土)午後	当日 12:00~14:10	14:10~16:40	16:40~17:00
8月2日(日)午前	前日 17:00~17:30 当日 8:30~9:00	9:00~11:30	11:30~12:00
8月2日(日)午後	当日 12:20~13:00	13:00~15:00	15:00~15:30

3. 演題名・氏名・所属を、縦 20cm×横 70cm 以内で作成してください。
4. 演題内容(本文)を、縦 190cm×横 90cm 以内で作成してください。
5. ポスターの貼付に必要な画鋲は、各発表区画のパネルに用意しております。
6. 進行は座長に従ってください。1 演題 6 分（発表 4 分、質疑応答 2 分）です。時間を厳守してください。
7. 優れた演題にポスター賞を授与いたします。受賞演題は 8月2日(日)15時 に受付で発表し、閉会式で表彰いたします。



<ポスター掲示用パネル>

自由集会世話人の方へ

1. 自由集会の受付はございません。直接会場へお越しください。
2. 定刻になりましたら開始してください。また終了時刻を厳守してください。
3. 自由集会の準備・運営・後片付け等は、すべて世話人が行ってください。
4. 会場内には、プロジェクター、ホワイトボード、スクリーン、マイクが整備されています。PC をご使用の場合は、世話人でご用意ください。

8月1日(土)
一般演題(示説) 会場名 303

- 14:10~14:40
石橋 みゆき (千葉大学)
-
- 1-1 要支援・要介護高齢者の適切な退院先の選択に向けた意思決定支援
—A 大学医学部附属病院診療連携室が着目するアセスメント項目を通して—
田村 有希¹⁾, 永田 千鶴²⁾
1) 山口大学医学部附属病院, 2) 山口大学大学院
- 1-2 医療ニーズを有する高齢者の在宅移行期における退院支援のあり方に関する研究
—訪問看護師の視点から—
松長 理子¹⁾, 伊藤 絵梨子²⁾, 田高 悦子²⁾, 有本 梓²⁾, 大河内 彩子²⁾,
臺 有桂³⁾, 白谷 佳恵²⁾
1) 横浜市立大学附属病院, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 1-3 「退院支援看護師」と「退院支援担当の病棟看護師」の実践状況
—全国調査の実施および先行調査結果との比較検討—
戸村 ひかり¹⁾, 永田 智子²⁾, 清水 準一¹⁾
1) 首都大学東京大学院, 2) 東京大学大学院
- 1-4 脳卒中の急性期・回復期間連携における退院支援・調整業務実施時期と関連要因
阿部 真美
慶應義塾大学大学院

- 14:10~14:40
合田 加代子 (香川県立保健医療大学)
-
- 2-1 世代間交流における「地域づくり」概念に関する文献検討
糸井 和佳
帝京科学大学
- 2-2 地域で健康づくり活動を行う男性健康推進員の体験とその意味
二村 純子¹⁾, 坂本 真理子²⁾
1) 愛知医科大学大学院, 2) 愛知医科大学
- 2-3 健康づくりから展開した地域づくり —町内会の事例から自主化を考える—
佐々木 まさみ¹⁾, 田高 悦子²⁾, 大河内 彩子²⁾
1) 元 富岡地域ケアプラザ地域包括支援センター, 2) 横浜市立大学大学院
- 2-4 A 町住民の生活習慣病に関する意識調査—A 町の住民に対する健康クイズを通して—
笹森 佳子, 千葉 敦子
青森県立保健大学
- 2-5 地域住民が実施できる健康行動・強みに関する研究 —健康行動に影響する要因—
内田 陽子
群馬大学大学院

乳幼児とその養育者における今日的課題

14:40～15:10

大森 純子 (東北大学)

-
- 3-1 国内外の保健医療分野における乳幼児用チャイルドシートに関する文献検討
千葉 敦子, 小笠原 メリッサ, 川内 規会
青森県立保健大学
- 3-2 幼児を育てる母親の近所とのつながりと育児ストレス、育児マスターリーの関係
金子 紀子¹⁾, 石垣 和子¹⁾, 浅村 好恵²⁾, 尾蔵 清佳²⁾
1) 石川県立看護大学, 2) 金沢市駅西福祉健康センター
- 3-3 子育て世代における社会参加学習経験と親性、育児観、地域愛着、
地域活動参加意欲の関連
古川 照美
青森県立保健大学
- 3-4 幼児肥満と生活習慣、親の認識、近隣環境との関連
内村 彩華, 針金 佳代子, 吉田 礼維子
天使大学大学院
- 3-5 1歳6か月と3歳における親性の比較及び子どもの体重との関連
戸沼 由紀, 古川 照美
青森県立保健大学

東日本大震災とこれからの健康危機管理

14:40～15:10

安齋 由貴子 (宮城大学)

-
- 4-1 災害時に備えた図上シミュレーションについて
—医療依存度の高い在宅難病患者宅での実施例から分かること—
宮木 佳美¹⁾, 臺 有桂²⁾
1) 神奈川県鎌倉保健福祉事務所, 2) 鎌倉女子大学短期大学部
- 4-2 東日本大震災による神奈川県内避難者支援と福島県在住被災者支援を通じた復興支援
—NPO 法人の活動を通して—
高松 清美¹⁾, 大河内 彩子²⁾
1) NPO 法人 よこはま・七つ星, 2) 横浜市立大学大学院
- 4-3 東日本大震災による県外長期避難生活者における生活体験と防災意識の質的記述的研究
丹野 みゆう¹⁾, 大河内 彩子²⁾, 田高 悦子²⁾, 有本 梓²⁾, 臺 有桂³⁾,
伊藤 絵梨子²⁾, 白谷 佳恵²⁾
1) 横浜市立大学附属市民総合医療センター, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 4-4 原子力事故復旧期の地域における学校保健と地域保健の協働
三森 寧子
聖路加国際大学
- 4-5 東日本大震災被災地における高齢者の移動能力と健康度自己評価への仮設住宅
居住の影響
永田 智子, 松永 篤志
東京大学大学院

地域高齢者の健康課題とレジリエンス

15:10～15:40

河原田 まり子 (札幌市立大学)

-
- 5-1 地域在住高齢者におけるフレイルへの介入と効果に関する文献レビュー
瀬戸 佳苗, 田高 悦子, 有本 梓
横浜市立大学大学院
- 5-2 在宅虚弱高齢者への予防訪問における生活上の課題抽出の妥当性
海原 律子¹⁾, 和泉 京子¹⁾, 河野 あゆみ²⁾, 金谷 志子²⁾, 吉行 紀子²⁾
1) 武庫川女子大学, 2) 大阪市立大学大学院
- 5-3 高齢者の転居に関する検討 —転居時の状況と転居後の生活の予測を中心に—
古田 加代子¹⁾, 輿水 めぐみ²⁾, 流石 ゆり子³⁾
1) 愛知県立大学, 2) 滋賀医科大学, 3) 山梨県立大学
- 5-4 都市部地域在住高齢者における男女別にみた主観的健康感の関連要因の検討
赤塚 永貴¹⁾, 有本 梓²⁾, 田高 悦子²⁾, 臺 有桂³⁾, 伊藤 絵梨子²⁾,
白谷 佳恵²⁾, 大河内 彩子²⁾
1) 横浜市瀬谷区福祉保健センター, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部

就労者の健康課題と支援

15:10～15:40

錦戸 典子 (東海大学)

-
- 6-1 将来のうつ病発症自己予測の特徴と必要とされる保健活動
江藤 敏治¹⁾, 青石 恵子²⁾
1) 宮崎県立看護大学, 2) 宮崎大学
- 6-2 都市部地域在住の壮年期住民における抑うつの実態と関連要因の検討
遠宮 菜都香¹⁾, 田高 悦子¹⁾, 有本 梓¹⁾, 伊藤 絵梨子¹⁾, 白谷 佳恵¹⁾,
大河内 彩子¹⁾, 臺 有桂²⁾
1) 横浜市立大学大学院, 2) 鎌倉女子大学短期大学部
- 6-3 行動変容ステージ別にみた都市部在住の壮年期者における健康関連要因と
食生活の特徴
梅原 雅代¹⁾, 有本 梓²⁾, 田高 悦子²⁾, 白谷 佳恵²⁾, 伊藤 絵梨子²⁾,
大河内 彩子²⁾, 臺 有桂³⁾
1) 横浜市立大学付属病院, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 6-4 就労者に対する健康増進プログラムの性別・年齢による効果の比較
小出 恵子¹⁾, 岡本 玲子¹⁾, 田中 美帆¹⁾, 福岡 悦子²⁾, 山野井 尚美³⁾
1) 岡山大学大学院, 2) 山陽学園大学, 3) 岡山県保健福祉部
- 6-5 職場のソーシャル・キャピタルと倫理に関する 尺度開発
—病院組織を対象としたデルファイ法によるパネル調査—
富永 真己
京都橘大学

-
- 7-1 新任期にある市町村保健師が認識している自己の成長に影響を与えた経験
—日本地域看護学会教育委員会の調査から—
佐藤 紀子¹⁾, 春山 早苗²⁾, 筑波 優子³⁾, 上野 まり⁴⁾, 荒木田 美香子⁵⁾,
澤井 美奈子⁶⁾, 三森 寧子⁷⁾, 椎葉 倫代⁸⁾
1) 千葉県立保健医療大学, 2) 自治医科大学, 3) 埼玉県春日部保健所, 4) 日本訪問看護財団,
5) 国際医療福祉大学, 6) 日本赤十字看護大学, 7) 聖路加国際大学,
8) 新日鉄住金ソリューションズ(株)
- 7-2 保健師実習指導者が感じる実習指導へのやりがい
柴田 亜希, 吉岡 幸子, 関 美雪
埼玉県立大学
- 7-3 保健所管内地域保健師研修会における事例検討とその効果
齋藤 希望, 西嶋 真理子
愛媛大学大学院
- 7-4 統括的な役割を担う保健師に必要な経験に関する研究
石丸 美奈¹⁾, 宮崎 美砂子¹⁾, 奥田 博子²⁾
1) 千葉大学大学院, 2) 国立保健医療科学院

-
- 8-1 特定年齢住民への全戸訪問に取り組んだ保健師が駆使した公衆衛生看護技術
下村 聡子, 安田 貴恵子, 御子柴 裕子, 酒井 久美子, 村井 ふみ,
柄澤 邦江, 中林 明子
長野県看護大学
- 8-2 市町村保健師の個別支援における地域情報の活用方法
笹沢 優貴¹⁾, 佐藤 由美²⁾
1) 高崎市保健医療部健康課, 2) 群馬大学大学院
- 8-3 行政と地域住民で取り組む感染対策ネットワーク
—感染症対策活動を担う今金町感染対策連絡会議の活動—
山田 薫
今金町役場保健福祉課
- 8-4 沖縄県の行政機関に勤務する保健師の専門職務遂行能力
川崎 道子¹⁾, 永吉 ルリ子²⁾, 大屋 記子³⁾, 牧内 忍¹⁾, 金井 優子²⁾
1) 沖縄県立看護大学大学院, 2) 名城大学, 3) 沖縄県八重山福祉保健所

グループ・組織とコミュニティエンパワメント

15:40～16:10

佐藤 紀子 (千葉県立保健医療大学)

- 9-1 ボトムアップ型のネットワーク構築をめざす自主グループ活動の効果と課題
宇多 みどり, 加利川 真理, 片倉 直子
神戸市看護大学
- 9-2 地域住民主体の支え合い活動「茶卓」の支援経過
—地域住民とともに行う地域診断を通して—
佐藤 真由美
横浜市社会福祉協議会横浜市東永谷地域ケアプラザ
- 9-3 向社会性と組織化に関する文献検討
—地域住民の向社会性向上教育プログラムの開発に向けて—
中嶋 真哉¹⁾, 小林 佳人²⁾, 古川 照美³⁾
1) 五所川原市役所, 2) 大館市役所, 3) 青森県立保健大学
- 9-4 地域における組織の社会化に関する文献検討
—地域住民における健康増進活動組織の社会化に向けて—
小林 佳人¹⁾, 中嶋 真哉²⁾, 古川 照美³⁾
1) 大館市役所, 2) 五所川原市役所, 3) 青森県立保健大学
- 9-5 地区組織を活用した住民の健康課題の解決にむけた保健師の支援の特徴
伊丹 幸子¹⁾, 山崎 洋子²⁾
1) 山梨県富士・東部保健福祉事務所, 2) 山梨大学大学院

学童前期・学童期の子どもの発達と健康課題

16:10～16:40

宇座 美代子 (琉球大学)

- 10-1 保育所における子どもの発達支援の課題
関 美雪, 林 裕栄, 柴田 亜希, 吉岡 幸子, 藤川 あや
埼玉県立大学
- 10-2 「気になる子ども」のハイブリッドモデルによる概念分析
—保健師・保育士の視点から—
大河内 彩子, 田高 悦子
横浜市立大学大学院
- 10-3 特別支援学校で医療的ケアに携わる学校看護師の現任教育に関する調査
—日本地域看護学会教育委員会の調査から—
荒木田 美香子¹⁾, 三森 寧子²⁾, 春山 早苗³⁾, 澤井 美奈子⁴⁾, 佐藤 紀子⁵⁾,
筑波 敏子⁶⁾, 上野 まり⁷⁾, 椎葉 倫代⁸⁾
1) 国際医療福祉大学, 2) 聖路加看護大学, 3) 自治医科大学, 4) 日本赤十字看護大学,
5) 埼玉県春日部保健所, 6) 千葉県立保健医療大学, 7) 日本訪問看護財団,
8) 新日鉄住金ソリューションズ(株)
- 10-4 中学生における睡眠状況と身体症状の関連
—平日および休日の活動・休息状況からの検討—
西村 美八¹⁾, 倉内 静香²⁾, 古川 照美³⁾
1) 京都橘大学, 2) 弘前大学大学院, 3) 青森県立保健大学
- 10-5 普通学級における児童のための health promotion ～多職種による統合的アプローチより
—精神的困難に苦しむ児童のための 教育の場における健康環境づくり—
北島 恵美子

-
- 11-1 精神疾患を有する特定妊婦の特徴の解明
吉岡 京子, 黒田 眞理子
東京医科大学
- 11-2 訪問看護における女性アルコール依存患者の支援過程
丹野 恵美, 豊田 まゆ美
公益社団法人神奈川県看護協会洋光台訪問看護ステーション
- 11-3 精神科訪問看護に用いられている看護実践能力 —統合失調症に焦点を当てて—
濱野 勝史
埼玉医科大学大学院
- 11-4 精神障がい者のきょうだいになることで経験する困難と重大な人生の選択への影響
蔭山 正子¹⁾, 横山 恵子²⁾, 中村 由嘉子³⁾, 小林 清香⁴⁾
1) 東京大学大学院, 2) 埼玉県立大学, 3) 名古屋大学大学院, 4) 東京女子医科大学

8月2日（日）

一般演題（示説） 会場名 303

9:00～9:30

精神障がい者のポピュレーションアプローチ

時長 美希（高知県立大学）

12-1 保健師の精神保健福祉相談員による相談内容の実態—精神保健福祉月報報告の分析—

松本 恵子¹⁾，上野 昌江²⁾，大川 聡子²⁾

1) 大阪市都島区保健福祉センター，2) 大阪府立大学

12-2 精神障害者のアウトリーチサービスの実態と普及に関するニーズ—A市内の訪問看護ステーションへの調査から—

林 裕栄，横山 恵子

埼玉県立大学

12-3 大都市圏在住統合失調症患者の孤独感とその関連要因の検討

塩田 藍，田高 悦子，大河内 彩子

横浜市立大学大学院

12-4 精神障害者の社会的孤立予防を目指した介入研究—二重課題が前頭葉機能に及ぼす影響の検討—

清水 暢子

石川県立看護大学

9:00～9:30

保健師教育の開発と深化

山崎 洋子（山梨大学）

13-1 保健師教育における技術項目と卒業時到達度調査（第1報）—保看統合大学と保健師選択大学の違い—

赤星 琴美¹⁾，佐伯 和子²⁾，平野 美千代²⁾，高橋 香子³⁾，永田 智子⁴⁾，
蔭山 正子⁴⁾，二宮 一枝⁵⁾，佐藤 玉枝¹⁾，村嶋 幸代¹⁾

1) 大分県立看護科学大学，2) 北海道大学大学院，3) 東北大学大学院，4) 東京大学大学院，
5) 岡山県立大学

13-2 クロスロード演習は家族面接ロールプレイにどのように役立つか

山本 春江¹⁾，千葉 敦子²⁾

1) 青森中央学院大学，2) 青森県立保健大学

13-3 住民の生存権を護る保健師活動に関するDVD教材を用いた授業の効果検討

岩本 里織¹⁾，岡本 玲子²⁾，名原 壽子³⁾，多田 美由貴¹⁾，
岡久 玲子¹⁾，松下 恭子¹⁾

1) 徳島大学大学院，2) 岡山大学大学院，3) 三育大学

13-4 新任期保健師の職業的アイデンティティ獲得に影響を与えた保健師モデル

高橋 眸，佐藤 由美

高崎市保健医療部健康課

9:30～10:00

新しい地域看護技術の開発

佐藤 由美 (群馬大学大学院)

-
- 14-1 保健行動実践に影響する認知の概念と関連要因に関する文献レビュー
河原 佐和子, 田高 悦子, 大河内 彩子
横浜市立大学大学院
- 14-2 ウランバトルでの環境保護活動推進のための啓発プログラムの構築
—住民参加・学生参加によるワークショップ形式での活動推進の試み—
伊藤 薫
四日市看護医療大学
- 14-3 デルファイ法を用いた予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検討 (その1)
—第1回目及び第2回目の質問紙調査結果—
飯野 理恵¹⁾, 石丸 美奈¹⁾, 時田 礼子¹⁾, 岩瀬 靖子¹⁾, 上田 修代²⁾,
杉田 由加里¹⁾, 栗栖 千幸³⁾, 佐藤 紀子⁴⁾, 宮崎 美砂子¹⁾
1) 千葉大学大学院, 2) 東京慈恵会医科大学, 3) 亀田医療大学, 4) 千葉県立保健医療大学
- 14-4 幼児健診結果の分析からみえる保護者支援に関する研究
石井 陽子¹⁾, 田口 弘美²⁾, 池田 妙香²⁾, 富田 早苗¹⁾, 波川 京子¹⁾
1) 川崎医療福祉大学, 2) 浅口市役所

9:30～10:00

地域看護診断の新たな地平

金子 仁子 (慶應義塾大学)

-
- 15-1 地域看護診断の到達度を高める方法の検討
—地区踏査導入時期の違いによる健康課題の比較—
畷 素代
白鳳短期大学
- 15-2 地域看護実習で行う地域診断及び地区活動計画作成へのポートフォリオ導入の試み
石川 麻衣, 小澤 若菜, 川本 美香, 時長 美希
高知県立大学
- 15-3 自治体でのフィールドワークと統計 GIS を導入した地域看護診断演習プログラムの評価
有本 梓¹⁾, 田高 悦子¹⁾, 大河内 彩子¹⁾, 臺 有桂²⁾, 白谷 佳恵¹⁾,
伊藤 絵梨子¹⁾, 小倉 弘美¹⁾, 塩田 藍¹⁾, 瀬戸 佳苗¹⁾, 河原 佐和子¹⁾
1) 横浜市立大学大学院, 2) 鎌倉女子大学短期大学部
- 15-4 地域アセスメントにおけるフォトボイス (photovoice) の導入 : 文献レビュー
松本 博成, 成瀬 昂, 蔭山 正子, 永田 智子
東京大学
- 15-5 地理情報システム (GIS) による根拠に基づく地区踏査計画の手法開発
—インターネット情報と GIS ソフトを用いた地域把握の過程—
大野 佳子¹⁾, 金子 仁子²⁾, 服部 兼敏³⁾
1) 北里大学, 2) 慶應義塾大学, 3) 人間環境大学

地域看護実践能力を高めるリフレクション

10:00～10:30

安田 貴恵子 (長野県看護大学)

-
- 16-1 2～4年目の新任期保健師のリフレクション能力獲得内容の特徴
上田 修代, 嶋澤 順子
東京慈恵会医科大学
- 16-2 新人保健師の実践能力を高めるリフレクション力修得への支援
—個別支援の振り返りを用いたワークショップの内容と効果—
石川 志麻, 雨宮 有子, 佐藤 紀子, 細谷 紀子, 宮澤 早織
千葉県立保健医療大学
- 16-3 自治体保健師が行うリフレクションの種類と回数の実態
杉本 由希子, 岡本 玲子
岡山大学大学院
- 16-4 市町村中堅保健師による施策立案における思考内容
細谷 紀子
千葉県立保健医療大学

次世代がつむぐ地域看護学における知

10:00～10:30

大澤 真奈美 (群馬県立県民健康科学大学)

-
- 17-1 在宅看取りを体験した介護者の講演聴講による看護学生への影響について
—死生観、価値観、ターミナルケアに対する態度に焦点を当てて—
種市 ひろみ, 森田 圭子, 熊倉 みつ子
獨協医科大学
- 17-2 学生の研究にみる地区を単位とした看護活動がもたらす実践知 その1
志賀 たずよ, 後藤 奈穂, 井手 知恵子
大分大学
- 17-3 医療系大学生の日常生活行動および健康管理行動の実際
—学年別にみた生活習慣の比較—
綾部 明江, 山口 忍, 鶴見 三代子
茨城県立医療大学
- 17-4 医療系と農学部系の学生協働による地域貢献活動の構築
山口 忍, 綾部 明江, 鶴見 三代子
茨城県立医療大学

- 18-1 看護師教育に強化すべき地域看護学の教育内容
安藤 陽子¹⁾, 小川 克子¹⁾, 河原田 まり子²⁾
1) 北海道保健看護大学校, 2) 札幌市立大学
- 18-2 海外文献からみた学士課程における地域看護学教育の現状 (第1報)
—実習・演習プログラムに焦点をあてて—
竹村 和子¹⁾, 牛尾 裕子²⁾, 小巻 京子²⁾, 宮芝 智子³⁾, 嶋澤 順子⁴⁾,
松下 光子⁵⁾, 塩見 美抄²⁾, 飯野 理恵⁶⁾
1) 元 兵庫県立大学, 2) 兵庫県立大学, 3) 神奈川県立保健福祉大学, 4) 東京慈恵会医科大学,
5) 岐阜県立看護大学, 6) 千葉大学大学院
- 18-3 海外文献から見た学士課程における地域看護学教育の現状 (第2報)
—実習・演習の成果と課題に焦点をあてて—
小巻 京子¹⁾, 牛尾 裕子¹⁾, 竹村 和子¹⁾, 宮芝 智子²⁾, 嶋澤 順子³⁾,
松下 光子⁴⁾, 塩見 美抄¹⁾, 飯野 理恵⁵⁾
1) 兵庫県立大学, 2) 神奈川県立保健福祉大学, 3) 東京慈恵会医科大学,
4) 岐阜県立看護大学, 5) 千葉大学大学院
- 18-4 病院看護師の認知する看護師教育における地域看護学教育の必要性
—地域看護学並びに在宅看護論学修経験との関連—
榎本 晃子, 田口 (袴田) 理恵, 西 留美子
共立女子大学
- 18-5 地域看護学の学修経験が病院看護師の考える看護師教育で育成すべき項目に与える影響
田口 (袴田) 理恵, 西 留美子, 榎本 晃子
共立女子大学

- 19-1 中山間地域における一人暮らし高齢者の求める居場所と在宅生活継続力の構造化
岡田 麻里¹⁾, 小出 恵子²⁾, 尾形 由起子³⁾, 田中 美延里⁴⁾, 水馬 朋子¹⁾
1) 県立広島大学, 2) 岡山大学大学院, 3) 福岡県立大学, 4) 愛媛県立医療技術大学
- 19-2 離島漁村地域に暮らす住民の健康とソーシャルキャピタルの認識
—地域住民への聞き取り調査からの分析—
成田 太一¹⁾, 齋藤 智子²⁾, 小林 恵子²⁾
1) 新潟大学, 2) 新潟大学大学院
- 19-3 農村高齢者における社会との関わりと関連要因
佐藤 美由紀
人間総合科学大学
- 19-4 都市部在住高齢者における高齢者の社会参加活動の尺度開発と関連要因の検討
井上 彩乃¹⁾, 田高 悦子²⁾, 白谷 佳恵²⁾, 有本 梓²⁾, 大河内 彩子²⁾,
伊藤 絵梨子²⁾, 臺 有桂³⁾
1) 横浜市鶴見区福祉保健センター, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 19-5 都市部地域在住の壮年期住民におけるロコモティブシンドロームに関する基礎的研究
伊藤 絵梨子¹⁾, 田高 悦子¹⁾, 白谷 佳恵¹⁾, 有本 梓¹⁾, 大河内 彩子¹⁾,
臺 有桂²⁾, 小倉 弘美¹⁾, 塩田 藍¹⁾, 河原 佐和子¹⁾, 瀬戸 佳苗¹⁾
1) 横浜市立大学大学院, 2) 鎌倉女子大学短期大学部

住民の保健行動と関連要因

10:30～11:00

松尾 和枝（福岡女学院看護大学）

-
- 20-1 **がん検診受診率の低い地域住民のがん検診受診行動に関連する要因**
合田 加代子
香川県立保健医療大学
- 20-2 **長野県内の一市における保健指導員経験者の活動経験と活動に対する意識の実態**
細田 せい子¹⁾、安田 貴恵子²⁾、柄澤 邦江²⁾、御子柴 裕子²⁾
1) 飯田女子短期大学, 2) 長野県看護大学
- 20-3 **運動教室後の健康づくり活動にかかわる看護援助ニーズ**
箕河原 靖子¹⁾、後藤 奈穂²⁾、志賀 たずよ²⁾、井手 知恵子²⁾
1) 大分大学大学院, 2) 大分大学
- 20-4 **健康教育プログラムを受講した20～30代女性の子宮頸がん検診受診行動と関連因子
—健康講座と個別勧奨を組み合わせた健康教育プログラムの検討—**
松尾 泉
青森県立保健大学
- 20-5 **GISを用いた市町の訪問看護アクセシビリティ指標と住民の訪問看護利用の関連**
成瀬 昂, 松本 博成, 阪井 万裕, 永田 智子
東京大学大学院

在宅医療従事者の現状と人材育成

11:00～11:30

上野 まり（日本訪問看護財団）

-
- 21-1 **在宅医療実施者の救急搬送に関する課題
—救急隊に乗務する隊長の搬送経験の調査から—**
小林 裕美, 乗越 千枝
日本赤十字九州国際看護大学
- 21-2 **大阪府下の訪問看護事業所における看護職員の就業状況について
第1報：就業構造**
伊藤 美樹子¹⁾²⁾、上道 久美子¹⁾³⁾、立石 容子¹⁾⁴⁾、山本 恵¹⁾⁵⁾、
河野 あゆみ¹⁾⁶⁾
1) 大阪府訪問看護推進協議会実態調査委員会, 2) 大阪大学大学院, 3) 大阪府看護協会,
4) ハピネス訪問看護ステーション, 5) なごみライフ訪問看護ステーション, 6) 大阪市立大学大学院
- 21-3 **大阪府下の訪問看護事業所における看護職員の就業状況について
第2報：離職の状況**
上道 久美子¹⁾²⁾、伊藤 美樹子¹⁾³⁾、立石 容子¹⁾⁴⁾、山本 恵¹⁾⁵⁾、
河野 あゆみ¹⁾⁶⁾
1) 大阪府訪問看護推進協議会実態調査委員会, 2) 大阪府看護協会, 3) 大阪大学大学院,
4) ハピネス訪問看護ステーション, 5) なごみライフ訪問看護ステーション, 6) 大阪市立大学大学院
- 21-4 **訪問看護師の問題解決能力を向上させるためのケースメソッド研修の学習効果**
細道 奈穂子, 平澤 則子
新潟県立看護大学大学院
- 21-5 **在宅における訪問看護師の服薬支援の現状**
青石 恵子
宮崎大学

地域高齢者の健康指標とヘルスプロモーション

11:00～11:30

表 志津子 (金沢大学)

- 22-1 地域在住後期高齢者の客観的身体活動量と社会活動の実態
 樺山 舞, 神出 計
 大阪大学大学院
- 22-2 地域高齢者の抑うつと筋力、バランス機能との関連
 田中 美加
 北里大学
- 22-3 都市在住自立高齢者におけるロコモティブシンドロームのリスク要因の検討
 —立ち上がりテストを用いた群間比較からの考察—
 白谷 佳恵¹⁾, 田高 悦子¹⁾, 伊藤 絵梨子¹⁾, 有本 梓¹⁾, 大河内 彩子¹⁾,
 臺 有桂²⁾, 小倉 弘美¹⁾, 塩田 藍¹⁾, 瀬戸 佳苗¹⁾, 河原 佐和子¹⁾
 1) 横浜市立大学大学院, 2) 鎌倉女子大学短期大学部
- 22-4 正常 BMI 前期高齢者における高体脂肪率群の健康状態からみた保健指導の必要性
 藤田 俱子¹⁾, 河野 あゆみ²⁾
 1) 関西女子学園宝塚大学, 2) 大阪市立大学大学院
- 22-5 地域在住高齢者における独居と栄養状態・摂取量の関連
 飯坂 真司, 永田 智子, 真田 弘美
 東京大学大学院

健康格差とアウトリーチ

13:00～13:30

和泉 京子 (武庫川女子大学)

- 23-1 国保特定健診 5 年未受診者への家庭訪問後の健康行動
 —特定健診受診および医療機関受診の 1 年後の継続状況—
 和泉 京子, 岩佐 真也, 海原 律子
 武庫川女子大学
- 23-2 壮年期男性の特定健診受診行動とその関連要因の検討 —区役所来所者を対象に—
 仙田 寿子, 上野 昌江, 大川 聡子
 大阪府立大学大学院
- 23-3 本人以外からの相談により把握された一人暮らし高齢者の特徴
 —都市部の地域包括支援センター保健師等が関わる事例の分析から—
 多次 淳一郎
 三重県立看護大学
- 23-4 飲酒問題への援助要請に関わる高齢者の意識とその関連要因の検討
 岡田 ゆみ
 広島国際大学
- 23-5 経口補水液を用いた野宿生活者への健康支援
 白井 裕子¹⁾, 佐々木 裕子¹⁾, 井上 清美²⁾, 稲垣 絹代³⁾
 1) 愛知医科大学, 2) 神戸常盤大学, 3) 名桜大学

- 24-1 乳幼児期の母親の育児に対する思いと家族の喫煙との関連
—乳幼児健診等の母子保健データの分析から—
志村 香織¹⁾, 安本 理抄²⁾, 上野 昌江²⁾, 大川 聡子²⁾
1) 奈良県吉野保健所, 2) 大阪府立大学
- 24-2 在宅療養者の褥瘡悪化の理由と今後の方策に関する介護支援専門員の認識
中林 明子¹⁾, 柄澤 邦江¹⁾, 森上 幸恵²⁾, 伊藤 みほ子²⁾, 近藤 恵子¹⁾
1) 長野県看護大学, 2) 下伊那赤十字病院
- 24-3 介護施設職員の職場暴力の経験と心的外傷後ストレス反応に関する研究
藤村 一美¹⁾, 大河内 彩子²⁾
1) 山口大学大学院, 2) 横浜市立大学大学院
- 24-4 訪問看護師による在宅療養児の虐待に関連する状況把握と虐待認識の実態
西 留美子, 田口 (袴田) 理恵, 榎本 晃子
共立女子大学
- 24-5 在宅脳卒中既往高齢者の家族介護者における“虐待しそうになる意識”の実態と関連要因の検討
新藤 由香¹⁾, 田高 悦子²⁾, 伊藤 絵梨子²⁾, 有本 梓²⁾, 大河内 彩子²⁾, 臺 有桂³⁾, 白谷 佳恵²⁾
1) 東京大学医学部附属病院, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部

- 25-1 保健師の業務研究への継続的取り組みを推進する保健所の体制
杉田 由加里¹⁾, 石丸 美奈¹⁾, 井出 成美²⁾, 松下 光子³⁾, 石川 麻衣⁴⁾, 緒方 泰子⁵⁾
1) 千葉大学大学院, 2) 群馬大学大学院, 3) 岐阜県立看護大学, 4) 高知県立大学, 5) 東京医科歯科大学大学院,
- 25-2 統括的な役割を担う保健師の機能推進要因に関する研究
奥田 博子¹⁾, 宮崎 美砂子²⁾, 石丸 美奈²⁾
1) 国立保健医療科学院, 2) 千葉大学大学院
- 25-3 行政分野で働く保健師の職場環境に対する認識
金藤 亜希子, 中谷 久恵
広島大学大学院
- 25-4 中堅期保健師の職業的アイデンティティに関連する要因
角地 孝洋
小松市役所長寿介護課
- 25-5 市町村保健師の精神的健康と意欲を高める職場の検討
—社会とのつながりに着目して—
齋藤 尚子, 櫻井 しのぶ
順天堂大学

-
- 26-1 父親を対象とした育児支援プログラムの評価に関する文献レビュー
椎名 祐輝, 渡井 いずみ
名古屋大学大学院
- 26-2 子ども・子育て支援に向けた現状と課題
—戸塚区地域子育て支援拠点とつとの芽の活動について—
高村 美智子¹⁾, 大河内 彩子²⁾, 伊藤 絵梨子²⁾
1) 戸塚区地域子育て支援拠点とつとの芽, 2) 横浜市立大学大学院
- 26-3 未就学児の母親が認知する子育て支援内容と評価に関する質的研究
椛島 優莉¹⁾, 大河内 彩子²⁾, 田高 悦子²⁾, 有本 梓²⁾, 臺 有桂³⁾,
白谷 佳恵²⁾, 伊藤 絵梨子²⁾
1) 横浜市立大学附属病院, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 26-4 在日フィリピン人母に対する子育て支援
—子育てにおける異文化適応を目指した保健師の支援—
歌川 孝子¹⁾, 小林 恵子²⁾
1) 上越保健医療福祉専門学校, 2) 新潟大学大学院
- 26-5 グループ・トリプルPの介入による子育て支援効果の分析
—行政機関が主催する子育てセミナー受講者を対象に—
西嶋 真理子
愛媛大学大学院

-
- 27-1 乳児期の母子関係の安定に向けた保健師の役割
石川 麗, 白井 文恵, コン スイ, 小西 かおる
大阪大学大学院
- 27-2 青森県で乳幼児を育てる母親のソーシャルサポートの実態と専門職に求めるサポート
山内 麻未¹⁾, 倉内 静香²⁾
1) 弘前大学, 2) 弘前大学大学院
- 27-3 乳児を持つ父親へのインタビュー調査 —父親が育児や家事を手伝う理由について—
高木 悦子
東京女子医科大学大学院
- 27-4 乳幼児を育てる母親の身体疲労とその関連要因
山本 佳寿美¹⁾, 上野 昌江²⁾, 大川 聡子²⁾
1) 大阪府立大学大学院, 2) 大阪府立大学
- 27-5 乳幼児をもつ母親のソーシャルキャピタルと精神的健康度との関連
秋末 珠実¹⁾, 都筑 千景²⁾
1) 兵庫県明石市役所, 2) 神戸市看護大学

発達障害児を支える保健師活動

13:30～14:00

松田 宣子 (関西国際大学)

-
- 28-1 発達障害を危惧した「気になる子ども」と養育者への保健師が重要とする個別支援
田村 須賀子¹⁾, 山崎 洋子²⁾
1) 富山大学大学院, 2) 山梨大学大学院
- 28-2 発達障害児と育児者に対して多職種による支援を視野に入れた保健師の援助
子吉 知恵美¹⁾, 田村 須賀子²⁾
1) 石川県立看護大学, 2) 富山大学大学院
- 28-3 市町村保健センターにおける発達障害児支援と関係機関の連携に関する実態
矢島 正榮, 小林 亜由美, 廣田 幸子, 奥野 みどり
群馬パース大学
- 28-4 岡山県市町村保健センターにおける発達障害児対策の実態
芳我 ちより, 谷垣 静子
岡山大学大学院
- 28-5 1歳6か月児の広汎性発達障害疑いと育児ストレスの関連
—北海道スタディの結果から—
喜多 歳子
北海道情報大学

地域における多職種連携の方法と意義

14:00～14:30

尾形 由起子 (福岡県立大学)

-
- 29-1 地域職域連携を推進する方法論の明確化
—修士課程保健師教育における広域看護活動研究実習Ⅱを通じた学び—
峰松 恵里¹⁾, 赤星 琴美²⁾, 佐藤 玉枝²⁾, 岡元 愛²⁾, 内田 弘子³⁾,
村嶋 幸代²⁾
1) 大分県立看護科学大学大学院, 2) 大分県立看護科学大学, 3) 豊肥保健所
- 29-2 在宅ターミナル利用者に関わる多職種の力を引き出す—もちはもち屋—
福田 明子¹⁾, 石井 朝巳¹⁾, 野口 麻衣子²⁾, 山本 則子²⁾
1) 訪問看護リハビリステーション翡翠の舞, 2) 東京大学大学院
- 29-3 介護ケアスタッフと看護スタッフとの協働のあり方に関する一考察
古川 秀敏¹⁾, 魚里 明子²⁾, 伊木 智子¹⁾, 前田 則子¹⁾
1) 関西看護医療大学, 2) 神戸女子大学
- 29-4 訪問看護師とリハビリテーション専門職の連携を行う場面と連携の意味に関する
質的研究
横山 喜子¹⁾, 大河内 彩子²⁾, 田高 悦子²⁾, 有本 梓²⁾, 臺 有桂³⁾,
白谷 佳恵²⁾, 伊藤 絵梨子²⁾
1) 洛和会音羽病院, 2) 横浜市立大学大学院, 3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 29-5 在宅多職種連携で経鼻経管から3食が経口摂取可能となった1症例
—くも膜下出血後遺症の嚥下障害と歯科の関わり—
菊地 秀子
きくち歯科クリニック

在宅看取りをめぐるニーズと課題

14:00～14:30

石原 多佳子 (岐阜大学)

- 30-1 最期の療養の場における意思決定支援について
—本人、家族の意向の調整を通して想いを支える—
大竹 泰子¹⁾、野口 麻衣子²⁾、山本 則子²⁾
1) 一般社団法人横浜市栄区医師会栄区訪問看護ステーション、2) 東京大学大学院
- 30-2 訪問看護師の自宅で看取りを行った家族への支援
—訪問看護師が行った悲嘆ケアが上手くいったと認知する事例—
大浜 恵美子¹⁾、新谷 奈苗²⁾
1) 奈良学園大学、2) 関西国際大学
- 30-3 同居近親者死別による独居高齢者の生活と健康
—死別6カ月後のアンケート調査から—
美ノ谷 新子¹⁾、藤尾 祐子¹⁾、小川 典子¹⁾、横島 啓子²⁾、福島 龍子³⁾、
米澤 純子⁴⁾
1) 順天堂大学、2) 武庫川女子大学、3) 純真学園大学、4) 東京家政大学
- 30-4 地域密着型サービスでの看取りの実践
—グループワークで語られた看取りの経験の分析—
永田 千鶴¹⁾、松本 佳代²⁾、中原 恵美³⁾、清永 麻子⁴⁾、北村 育子⁵⁾、
堤 雅恵¹⁾
1) 山口大学大学院、2) 熊本大学大学院、3) 熊本保健科学大学、4) 熊本機能病院、5) 日本福祉大学
- 30-5 在宅がん療養者のスピリチュアルペインに関わる訪問看護師のケアの現状
柄澤 邦江¹⁾、伊藤 礼子²⁾、大石 ふみ子³⁾、中林 明子¹⁾、安田 貴恵子¹⁾
1) 長野県看護大学、2) 伊那中央病院、3) 愛知医科大学

地域における認知症ケアとネットワーク、普及啓発

14:30～15:00

野村 美千江 (愛媛県立医療技術大学)

- 31-1 徘徊高齢者のSOSシステム構築に果たした保健師の広域的な調整機能
小路 ますみ
聖マリア学院大学
- 31-2 地域で活動している認知症ケア専門士における認知症早期発見の啓発の方法の検討
神澤 都
地域包括支援センター菟谷
- 31-3 認知症支援における専門職の困難とその対処方法
—A県の地域包括支援センターの専門職を対象として—
依田 純子、佐藤 悦子、泉宗 美恵、須田 由紀
山梨県立大学
- 31-4 在宅認知症療養者の家族介護者の介護負担感・介護充実感とソーシャルサポートとの関連
落合 佑三子¹⁾、有本 梓²⁾、田高 悦子²⁾、臺 有桂³⁾、大河内 彩子²⁾、
白谷 佳恵²⁾、伊藤 絵梨子²⁾
1) 平塚保健福祉事務所、2) 横浜市立大学大学院、3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 31-5 小学校高学年生と保護者を対象にした認知症啓発教育プログラムの効果
梶田 聖子、荒賀 直子
甲南女子大学

-
- 32-1 在宅で人工呼吸器を利用する子どものショートステイを実現していく構造
山本 真実, 杉野 緑, 日比野 直子
岐阜県立看護大学
- 32-2 医療的ケアを要する在宅療養児の主養育者の健康関連 QOL と保健行動
細田 裕子¹⁾, 安田 貴恵子²⁾
1) 飯田女子短期大学, 2) 長野県看護大学
- 32-3 脳性麻痺と診断される前に NICU を退院した乳幼児をもつ母親の育児上のニーズ
—診断される前の時期に焦点化して—
守村 里美, 吉田 礼維子, 針金 佳代子, 白井 英子
天使大学大学院
- 32-4 知的障がい者の生活場所を決断する渦中にある高齢期の母親の葛藤—親なき後に向けて—
佐々木 理恵¹⁾, 大河内 彩子²⁾, 田高 悦子²⁾, 有本 梓²⁾, 臺 有桂³⁾,
白谷 佳恵²⁾, 伊藤 絵梨子²⁾
1) 横浜市立大学附属市民総合医療センター, 2) 横浜市立大学大学院,
3) 鎌倉女子大学短期大学部
- 32-5 こども・若者の社会的自立を支援する 3 自治体の先駆的取組み
—教育と就労の狭間で所属を失う若者を予防する支援システムの構築—
久佐賀 眞理
長崎県立大学

自由集会

8月1日（土）

- 自由集会 1 会場：317 時間：14:00～15:15
GIS を活用し地域で新たなアセスメント・看護を！
—横浜市で Arc GIS を使った 10 年の蓄積を中心に—
佐藤 祐子 元横浜国立大学大学院
- 自由集会 2 会場：317 時間：15:25～16:40
修士課程の保健師教育を先駆的に開始した大学からの報告
村嶋 幸代 大分県立看護科学大学

8月2日（日）

- 自由集会 3 会場：317 時間：9:00～10:15
看護基礎教育に退院支援実習を取り入れて
西崎 未和 東邦大学
- 自由集会 4 会場：318 時間：9:00～10:15
要支援高齢者のケア資源開発のための住民参加型地域アセスメント
—photovoice（写真によるメッセージ）を使う新たな技法—
河野 あゆみ 大阪市立大学大学院
- 自由集会 5 会場：317 時間：10:25～11:40
青葉保健師からのメッセージ—若葉から青葉へ大切にしてきたこと、そして今—
関根 綾希子 新潟県柏崎地域振興局健康福祉部
- 自由集会 6 会場：317 時間：13:00～14:15
Photovoice の保健師・看護師教育における活用可能性を探る
蔭山 正子 東京大学大学院
- 自由集会 7 会場：317 時間：14:25～15:40
オープンソース GIS、QGIS による保健師への GIS 教育
—ゼロ予算で構築する GIS（数値地図システム）と保健師業務のパラダイムシフト—
服部 兼敏 人間環境大学
- 自由集会 8 会場：318 時間：14:25～15:40
教育と研究に活用できる「見せる公衆衛生看護技術」の WEB 教材
岡本 玲子 岡山大学大学院

協賛・寄付ご芳名一覧

下記の機関ならびに個人の皆様方より本学術集会に対しご協賛・ご寄付を賜りました。ここに深く感謝し厚くお礼申し上げます。

共催セミナー

一般財団法人電気安全環境研究所電磁界情報センター
ESRI ジャパン株式会社
株式会社日本エンブレース
株式会社ナガセ
ソフトバンク株式会社
東洋羽毛工業株式会社

広告

医歯薬出版株式会社
一般社団法人電気安全環境研究所電磁界情報センター
株式会社医学書院
株式会社クオリス
株式会社日本看護協会出版会
株式会社メディカ出版
株式会社ワールドプランニング
中央法規出版株式会社

展示

ESRI ジャパン株式会社
株式会社いわさき
株式会社志成データム
株式会社ナガセ
株式会社ビーブランド・メディコーデンタル東京営業所
株式会社ヘルシーネットワーク
株式会社メルシー
株式会社ヤマト
タカナシ乳業株式会社
東洋羽毛工業株式会社
日清オイリオグループ株式会社
日本ビーシージー製造株式会社

書籍

株式会社クオリティケア
株式会社クマノミ出版
株式会社 DMP-ヘルスバンク
株式会社ニホンミック
株式会社有隣堂
株式会社ワールドプランニング
紀伊国屋書店横浜店
世界の医療団（認定 NPO 法人）

寄付

社団法人 慈恵会 西澤諒一

助成

一般社団法人日本看護系学会協議会 (Nursing Science Café 事業)
公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

支援

公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

共催

横浜市立大学 (市民公開講座)

後援

横浜市

(2015年6月1日時点 五十音順 敬称略)

日本地域看護学会第18回学術集会 企画委員会

学術集会長

田高 悦子 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野教授

企画委員 (五十音順)

尾崎 章子 東北大学大学院医学研究科保健学専攻老年・在宅看護学分野教授
北岡 英子 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科教授
臺 有桂 鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科教授
田口 (袴田) 理恵 共立女子大学看護学部地域・在宅看護学教授
永田 智子 東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野准教授

事務局

有本 梓 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野准教授
大河内 彩子 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野准教授
伊藤 絵梨子 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野助教
白谷 佳恵 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野助教
小倉 弘美 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野助手

学会事務センター

株式会社ワールドプランニング

業務委託

株式会社ユピオ

地域看護関連書

◎必要な医療・福祉サービスが見つかる！ わかる！ 活用できる！

医療福祉総合ガイドブック

2015年度版

編集 NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会
編集代表 村上須賀子・佐々木哲二郎・奥村晴彦

医療・福祉サービスを利用者の生活場面に沿って解説したガイドブックの2015年度版。最新情報をフォローし、医療・福祉制度がより理解しやすくなるように解説を見直し、大幅刷新！ 全国共通で利用頻度の高い制度から地域によって異なるサービス例まで、幅広く網羅。利用者からの相談に素早く、より確実に対応するための医療・福祉関係者必携の1冊。

●A4 頁320 2015年 定価：本体3,300円＋税 [ISBN978-4-260-02122-7]



◎高齢者医療は、ものがたりがつなぐ絆から

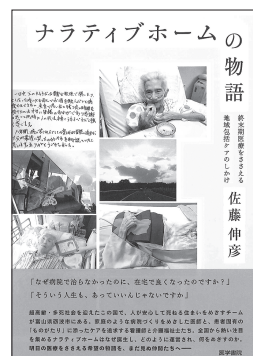
ナラティブホームの物語

終末期医療をささえる地域包括ケアのしかけ

佐藤伸彦

超高齢・多死社会を迎えたこの国で、人が安心して死ぬる住まいをめざしたチームが富山県砺波市にある。家庭のような病院をめざした医師と、患者固有の物語に添ったケアを追求する看護師と介護福祉士たち。2010年開設以来、全国から熱い注目を集めるナラティブホームはどのように誕生し、日々運営されているのか。さらにその診療、看取り、エンゼルメイク、葬儀、アルバム作りまで、医療者の実践の詳細を1冊にまとめた。

●A5 頁272 2015年 定価：本体1,800円＋税 [ISBN978-4-260-02098-5]



公衆衛生実践 キーワード

地域保健活動の今がわかる 明日がみえる

編集 鳩野洋子・島田美喜

●A5 頁208 2014年 定価：本体2,800円＋税
[ISBN978-4-260-02044-2]

今日から使える 特定健診・特定保健指導 実践ガイド

編著 今井博久

●B5 頁172 2014年 定価：本体2,400円＋税
[ISBN978-4-260-02090-9]

医学書院発行雑誌紹介

保健師ジャーナル

第一線で活躍する保健師に向けた、「保健師」の名の付く唯一の専門誌。保健活動の「いま」と「これから」を、確かな情報と具体的な実践を伝えることで描き出す。

●月刊(年12冊)
1部定価：本体1,400円＋税

訪問看護と介護

2025年まであと10年——。地域包括ケアシステムの構築に向けて変革する“現場”の最新情報をお届けする。在宅・地域の医療・介護、その人材育成に関わるすべての人に。

●月刊(年12冊)
1部定価：本体1,300円＋税



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

[販売部] TEL: 03-3817-5657 FAX: 03-3815-7804

E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp 振替: 00170-9-96693

携帯サイトはこちら



地域包括ケアをリードする 医療と介護 Next

地域包括ケアを読み解く専門誌が、ついに誕生しました。団塊世代が後期高齢者となる2025年まで、あと10年。医療も介護もこれまでの仕組みではたかゆかず、地域包括ケアシステムの構築が急務とされています。地域包括ケアの中心となる訪問診療・訪問看護・地域密着型介護サービスの担い手に向けて、何をすればよいか、何が必要か、専門家や識者が伝えます。

4つの視点から鋭く アプローチする特集

- 医療** 在宅看取りは高齢者医療をどう変えるか
- 看護** 看護師ができる在宅看取り
- 介護** 在宅ターミナルを支える介護職
- 高齢者の住まい** 高齢者の住まい 柏プロジェクトに学ぶ

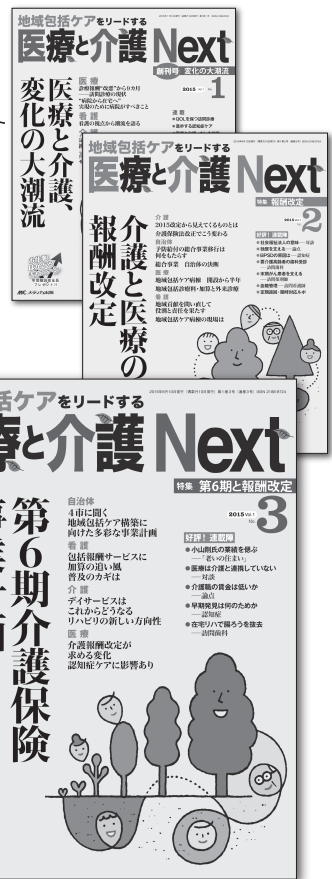
※発売中の4号より

好評連載

- かいごの論点
- 認知症 そのままでいい
- 地域の診療日記
- 「食べる」を支える訪問歯科
- 地域と歩む訪問薬剤師
- 老いの住まい ほか

定価(本体1,600円+税)

本誌 A4変型判 隔月刊

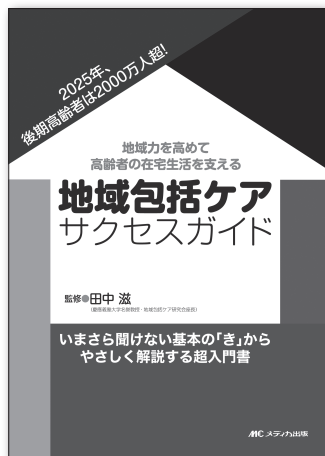


2025年、後期高齢者は2000万人超!

地域力を高めて
高齢者の在宅生活を支える

地域包括ケア サクセスガイド

監修●田中 滋
(慶應義塾大学名誉教授・地域包括ケア研究会会長)



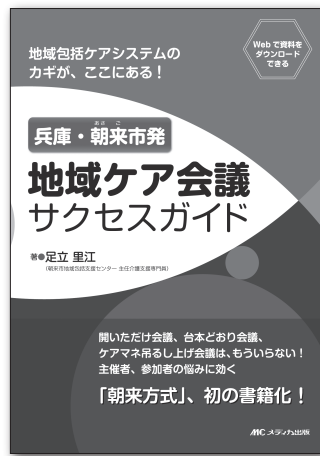
A5判/136頁 定価(本体2,000円+税)
ISBN978-4-8404-4966-3 [Web](#) T280360

地域包括ケアシステムのカギが、ここにある!

兵庫・朝来市発 [Webで資料をダウンロードできる](#)

地域ケア会議 サクセスガイド

著●足立 里江 (朝来市地域包括支援センター主任介護支援専門員)

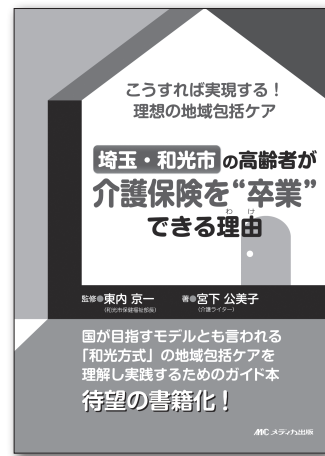


A5判/144頁 定価(本体2,000円+税)
ISBN978-4-8404-5322-6 [Web](#) T280490

こうすれば実現する! 理想の地域包括ケア

埼玉・和光市の高齢者が
介護保険を“卒業”
できる理由

監修●東内 京一 著●宮下 公美子
(和光市保健福祉部長) (介護ライター)



A5判/136頁 定価(本体2,000円+税)
ISBN978-4-8404-5321-9 [Web](#) T280410

MC メディカ出版

www.medica.co.jp

お客様センター ☎0120-276-591

本社 〒532-8588 大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル16F

公衆衛生看護学

2012年3月
刊行

- 津村智恵子、上野昌江 = 編集
- 定価 本体3,600円(税別) B5判・510頁 ISBN978-4-8058-3610-1

看護師・保健師課程のテキストとして、新カリキュラムや保健師国家試験出題基準、「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を踏まえ、国家試験に必要な知識を網羅した。基礎教育課程のテキストとして活用できる。

家族看護学

2007年3月
刊行

- 小島操子 = 監修/星 直子 = 編集
- 定価 本体2,600円(税別) B5判・204頁 ISBN978-4-8058-2860-1

家族看護学の入門書として基礎的な概念や理論をわかりやすく解説した。また、在宅でも病院(施設)でも活用ができるよう、家族間のバランスの崩れが一因となっている「虐待」などの問題や、「HIVと家族」「がん患者と家族」といった家族にまつわるケースも盛り込んだ。

日本の医療政策

2013年6月
刊行

成り立ちと仕組みを学ぶ

- 岩渕 豊 = 著
- 定価 本体2,400円(税別) A5判・194頁 ISBN978-4-8058-3855-6

日本の医療政策(医療保険及び提供体制)の成立過程や主旨、仕組み、諸外国との比較、近年の動向などについて、論点を整理し解説する。周辺話題を紹介したコラムや図表・統計などで多面的な理解を図ることができ、医療政策全般を学ぼうとする方に最適の一冊。

看護実践のための 倫理と責任

2014年1月
刊行

事例検討から学ぶ

- 宮脇美保子 = 著
- 定価 本体2,400円(税別) A5判・188頁 ISBN978-4-8058-3959-1

医療現場で起こっている倫理的問題をカンファレンス形式で事例検討し、倫理実践すなわち「よりよい看護」とは何かを明らかにしていく。拘束やインフォームド・コンセントなど、臨床現場の看護師が直面する倫理問題を言語化し、よりよい看護に向かうための一冊。

地域包括ケアシステム構築 のためのマネジメント戦略

2014年3月
刊行

integrated care の理論とその応用

- 筒井孝子 = 著
- 定価 本体3,000円(税別) A5判・282頁 ISBN978-4-8058-3984-3

「地域包括ケアシステム」の概念を背景・意図・将来的ビジョンを含めて包括的に把握できる理論書。諸外国の論考も分析し、日本で同システムを構築するための示唆を、進展する多様な政策も踏まえてまとめた。保険者・介護事業者等の実務者に有益な情報も収載。

老年症候群別 看護ケア関連図&ケアプロトコル

2008年11月
刊行

- 金川克子 = 監修/田高悦子、河野あゆみ = 編著
- 定価 本体2,800円(税別) B5判・374頁 ISBN978-4-8058-3086-4

複数の疾患がある場合が多く、看護の展開が難しいとされている高齢者看護。本書は、高齢者の全体像をとらえやすい「老年症候群」に焦点をあて、それぞれ関連図で示す。一次予防から三次予防までのアセスメントと看護ケアのポイントを、エビデンスに基づき解説。



中央法規
Chuohoki Publishing Co., Ltd.

〒110-0016 東京都台東区台東 3-29-1
<http://www.chuohoki.co.jp/>

TEL. 03-3834-5817
FAX. 03-3837-8037

インターネットでのご注文はe-booksへ!
<http://www.chuohoki.jp/ebooks/main>

ランチョンセミナー
開催!

一般財団法人 電気安全環境研究所 (JET)



電磁界情報センター
Japan EMF Information Center

私たちは電磁波(電磁界)の健康影響に関する 最新の情報を提供しています。

JEICは、経済産業省の「電力設備電磁界対策ワーキンググループ」の
政策提言を受けて設立された組織です。



国内外の情報調査・分析

ホームページ

国内外の最新の情報を調査して、
ホームページに掲載しています。

【主な内容】

- 国内外の最新情報
- 各種パンフレット
- 電磁界情報データベース



電磁波セミナーの開催

無料

電磁波に不安や疑問を持つ方に少しでも理解を深めていただくために、世界保健機関(WHO)などの科学的な見解をわかりやすくお伝えすることを目的としたセミナーを全国各地で開催しています。



電磁界情報データベース

無料

国内外の電磁界に関する論文や文献などを収集しデータベースとして保存・公開しています。

登録数
13,000以上



講師の派遣

無料

職場やコミュニティ、生涯教育機関などの勉強会へ講師派遣しています。
※原則、非営利団体が対象です。



ニュースレター・メールマガジン

無料

最新の知見・電磁波の解説などの情報をお知らせするため、ニュースレター(隔月)とメールマガジンを発信しています。



低周波磁界測定器貸出

無料

身のまわりの電磁波の強さを知っていただくことを目的に、電力設備や家電製品から発生する低周波磁界用の測定器を無料で貸し出すサービスを行っています。



電磁波の健康影響に関するご質問を受け付けています。

お問い合わせ
相談窓口

URL: <http://www.jeic-emf.jp/> TEL: 03-5444-2631
FAX: 03-5444-2632 mail: jeic@jeic-emf.jp

電話受付時間
平日9:00～17:00(12:00～13:00を除く)

**日本地域看護学会第 18 回学術集会
2015 年 6 月発行**

日本地域看護学会第 18 回学術集会 事務局
横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野
〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9
Email:jachn18@yokohama-cu.ac.jp